



「加茂桐箆筒」の製造技術を継承し、 卓越した伝統技術と創意工夫を基に、 現代の生活様式に合う和モダンを追及する

昭和55年、鈴木石太郎タンス店の4代目として家業に従事し、加茂の地で約220年前から受け継がれてきた、伝統工芸品「加茂桐箆筒」の製造技術を継承。

材料の選定から加工・仕上げまでの約80工程を一貫して製造することができる数少ない職人の一人。その中で特に得意とする技法は、高級桐箆筒の製造に必要な「蟻柄（ありほぞ）加工」と「剣留（けんどもめ）加工」といわれる高度技術。この技術を習得している鈴木氏は、加茂桐箆筒職人の中でもトップクラスの実力を持つ。

近年は、現代の生活様式に合う桐箆筒製品や、桐の特性を活かした「エコスピーカー」などの桐小物を開発・製造するなど、伝統的な日本文化と現代様式を融合させた「和モダン」な製品を造り出している。



〔切り組み作業〕木釘を用い、天板に仕切り束（つか）を接合する作業の様子

**マイスターの
ココがすごい!**

鈴木マイスターは、天然桐材を3年もの時間をかけて天日で乾燥・渋抜きをし、その後の材料取り、組み立て～仕上げまでのほとんどを、「手作業」で製造している。桐箆筒の美しい柱目の抽斗（引き出し）をゆっくり引いてみると、人の手加減に寄り添うように滑らかに開く。その繊細な感触は、熟練職人伝統の鉋（かんな）技によって生み出されるのである。



鈴木 浩市

Suzuki Koichi
昭和32年生まれ

勤務先

鈴木石太郎タンス店

昭和55年、創業1887年（明治20年）の鈴木石太郎タンス店の4代目として家業に従事。

平成10年、伝統工芸士に認定。

平成18年、加茂桐箆筒見本市デザインコンペにおいて加茂市長賞受賞（KIRI道楽宝箱）。

令和3年、新潟県伝統工芸士会功労者表彰。

焼桐小袖箆筒



桐チェスト RIN



桐製エコスピーカー

